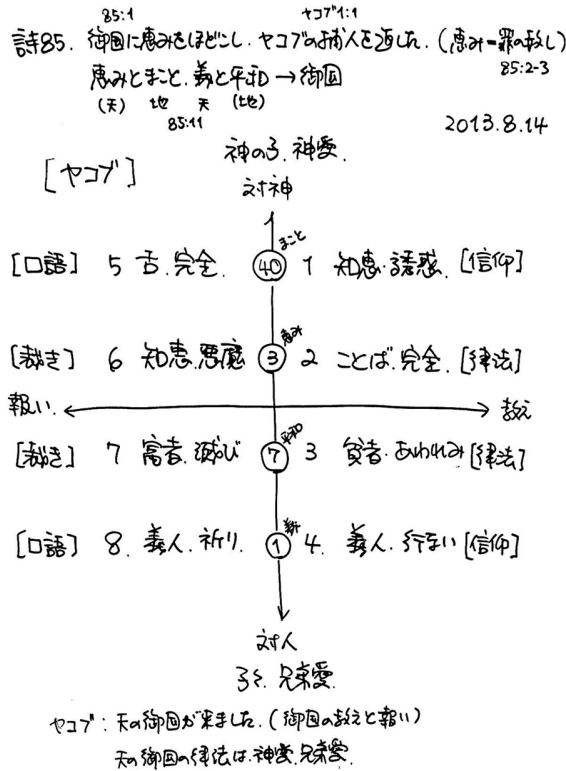




# ヤコブの手紙1-5章



「主よ、あなたは御国に恵みをほどこし、ヤコブの囚われ人をお返しになりました。恵みとまこととは、互いに出会い、義と平和とは、互いに口づけしています。まことは地から生えいで、義は天から見おろしています。」これが、詩篇85篇です。

ヤコブの囚われ人を返してくださったというのは、ヤコブの手紙の最初です。ヤコブが国外に散っている12の部族へ挨拶を送ります。それで、罪を覆われて神様の御国が来ました。恵みがあらわされました。その恵みがあらわされましたというときに、85篇だと、「恵み、まこと、義、平和」という4つの言葉で表現していますけれど、これは、御国が完成しました。完成したというよりは、御国が来ましたということが、この「恵みとまこと、義と平和」ということを見るとわかります。

それは、89篇にあるダビデの契約の成就の歌がありますね。恵みをとこしえに歌います。真実を私たちは語ります。恵みはとこしえに建てられ、その真実は天に堅く立てられる。これは、ダビデの契約に対しての神様の応答であるということは89篇を見てもわかります。

ヤコブの手紙は全体として、イエス様の山上の説教に似ているところがたくさんありましたよね。天の御国の教え、天の御国が来ました。その新しい天の御国の教えについて、そして、その教えを守ることによる報いについて教えている山上の説教。その山上の説教を教えられた者たちが、さらに次の世代に教えているというのがヤコブの手紙です。

ヤコブが12の部族に教える。天の御国が来ました。その天の御国の律法は、神を愛して兄弟を愛しなさいということにまとめられますけれど、その神を愛し兄弟を愛しなさい。そして、その新しい教えと報いということで、ヤコブの手紙の8段落が構成されているように見えます。

1,2,3,4と5,6,7,8この2つの前半後半、教えと報いというふうにまとめていますが、1,2,3,4のほうは、信仰と律法、みことば。後半のほうは、そのみことばを与えられた者が、どのように口を制するののかということと、その口によってさばきを行う6,7という前半後半に分けられています。

1,2,3,4という4つ、5,6,7,8という4つが、救いの歴史のストーリーである1,3,4,7と言っているストーリーの形式に従って書かれていると思います。最初に義と認められて救い出される。もしくは、兄弟を義と認められるように導くというのが、4と8。これが1番目の段落です。次にみことばが与えられ、知恵が与えられるというのが、2番目と6番目の段落。これが、3の恵みの話です。宝物が与えられた者が戦うというのが、1番目と5番目。試練の中でということと、正しく支配しなさいというのが、下の話です。アダムに与えられたこの世を支配する戦い。最終的なさばき comes よというのが、3番目と7番目の段落、貧しい者が御国を受けつぐことも書かれています。最後の日、終わりの日に高ぶる者がさばかれるということで、40,3,7,1という順番で1,2,3,4,5,6,7,8が書かれているかと思います。

恵みとまこと、義と平和。まことは地から生えいで、義は天から見おろしているというふうに書いてありますけれど、恵みはそういう意味では、天のほうなのでしょうね。平和は地に来るもの、地に平和が来るようにと言いますよね。み使いたちがね。地に平和が来るようにということですので、恵みは天、まことは地、義は天、平和は地というふうに分けてもできると思います。

40と言っているところは、まことの戦い、完全になる戦い、全き者となる戦いをしてる。3のところは、恵みのことばが与えられ、知恵が与えられている。3番目と7番目のところは、貧しい者があわれまれて、高ぶるものが滅びるという最終的な平和、平安についてを語っていて、最後の4番目と8番目の段落は義人、行いのある、生きている信仰によって神の子どもとされることと、神の子どもとされた者たちが、互いに罪を赦しあつてあわれみあうという義人の祈りについても書かれていますので、最後のところは、義と。まこと、恵み、平和、義という順番で、この御国が来ました。神様の御国が恵みで満たされていますということをヤコブが教えて、その成就があらわされることを待っているというのが、ヤコブの手紙だと思います。